



あきたの中高生があきたの海ごみ問題を解決！！

秋田県教育庁や各自治体の教育委員会、学校、各団体などの多くのステークホルダと連携して、多くの中高生が参画する環境をつくり、多くの人を巻き込み行動変容を促す。発信力のある中高生が海ごみ問題のコミュニティの主体となり海ごみゼロを発信して解決に向けた行動でムーブメントを起こす。

2023年度 実施状況について

その他事業：スポGOMI、高校連携商品開発事業など

中高生連携モデル

教育機関連携×海洋ごみ特別授業



- 概要** 秋田県内複数校にて専門家を招き海ごみの教育プログラムを導入し生徒が基礎知識を学ぶ
- 目的** 陸由来のごみが多い事を認識してもらい中高生の海洋ごみ問題に関する意識を高め学ぶ機会をつくる。
- アピールポイント** 清掃活動と連動する事でごみ拾いにも海ごみの意識を持って行える
- 効果** 指標とした数字：県内10校で実施目標
見られた成果：五城目高校、秋田西高校、角館中学校、由利工業ほか計10校で実施

教育機関連携×清掃活動



- 概要** 県教育委員会、各市町村教育委員会協力のもと、「おもいでごみ拾い」を各学校で実施
- 目的** 海洋ごみに興味を持ってもらい自分事化する機会を創出する
- アピールポイント** 県教育委員会と各市町村教育委員会の全面協力で年々実施校と生徒数増加している
- 効果** 指標とした数字：県内70校1万人の生徒参加目標
見られた成果：県内55校8,300人の生徒参加（11/1時点）※大雨災害や熊出没で中止校多数あり

教育機関連携×農業



- 概要** 農業を通じて海洋ごみプラスチック問題を学び農業の現場から海ごみゼロを発信
- 目的** 農業の現場でも多くのプラスチックを使用しそれが川に流れて海にたどり着いている事を学び発信する
- アピールポイント** 農業大国秋田で発信力のある中高生が脱プラスチック農業を学びながら啓発を行う
- 効果** 指標とした数字：種苗交換会でチラシ1000枚配布、CFBコラボ商品開発
見られた成果：チラシ1500枚配布、CFBコラボ米袋でお米300個販売

海ごみゼロウィーク



ごみ拾い参加人数 **1,835人** 箇所数 **11箇所**

アピールポイント 教育委員会と連携し各学校でごみ拾いを実施。自治体にも声をかけウィーク期間内にごみ拾いを実施していただいた。

メディア露出



メディア露出本数 **165本 (CM含む)**

アピールポイント 応援動画での取り上げと自社番組でも複数回スポGOMIなどの参加者募集告知を行ったほか、新聞でもごみ拾いなどで6回の取り上げがあった。

2023年度の課題とこれからの展望

2023年のおもいでごみ拾いでは約4割が県内陸部の中学校・高校の参加となり年々内陸部の学校の参加が増えてきているが、まだ海洋ごみ問題に関心が薄く、内陸部だから海洋ごみに関係ないとさえ思っている教育者もいる。海洋ごみ問題特別授業とごみ拾い活動を内陸部の学校を中心に進めていき、教育の現場から海ごみゼロを発信していく。